

貴重動物のミチゲーション事例

ホクリクサンショウウオとシャープゲンゴロウモドキの場合

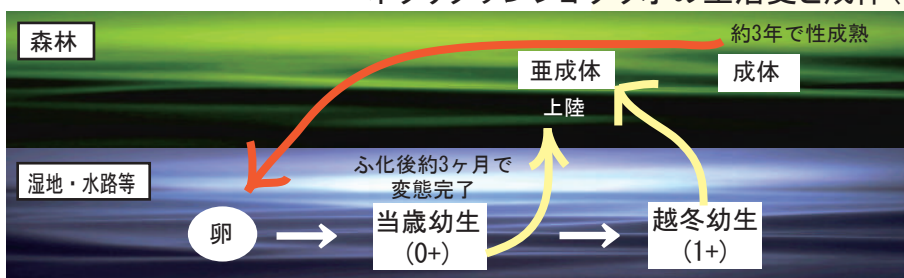
近年、良好な自然環境に対する国民の関心が高まり、国際的にも生物多様性の保全や健全な生態系の持続が重要課題となっています。よって公共事業においては、動植物の生息・生育環境に十分に配慮し、地域住民等の意見を踏まえた取り組みがより一層求められています。

能登半島周辺では、事業に伴う改変地に生息する貴重動植物について、移植地を設計・造成し、移植個体群と自然分布地の個体群との比較モニタリングを行い、一時的な回避策でなく、継続的・順応的に事業を行っています。

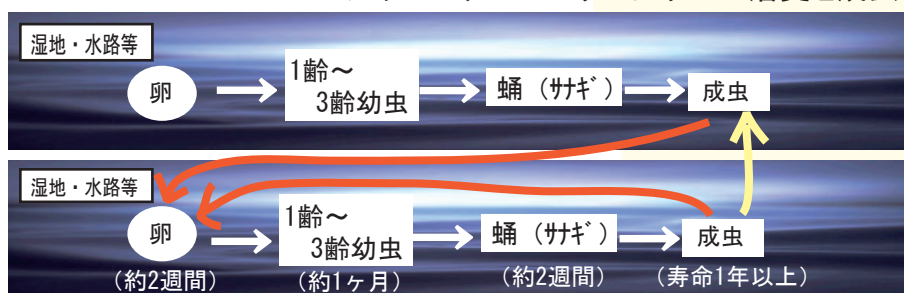
環境保全対策のコンセプト

1. 改変区域内の貴重種を移植し、継続的に生育・生息状況を監視し保全に努める。
2. ホクリクサンショウウオは森林と湿原環境の連続性に、シャープゲンゴロウモドキは良好な湿原環境に生息基盤を置いていることから(下図参照)、移植地のみならず地域全体の個体群の保全を目標とする。
3. 改変地周辺の自然分布地だけでは移植地が不十分と考えられることから、改変される生息地(環境容量)に見合った移植地を造成する。
4. 移植地の設計にあたっては、生活史生態を踏まえ、特に水量(水循環)、水温、餌生物、植生等を考慮する。
5. 自然(生態系)の復元や修復には常に不確実性が伴うために、モニタリング結果に基づいて、移植地を改良するなど継続的・順応的に事業を進める(Adaptive Management: 順応的管理)。

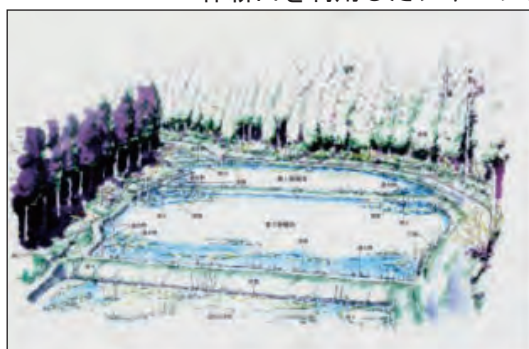
ホクリクサンショウウオの生活史と成体(写真)



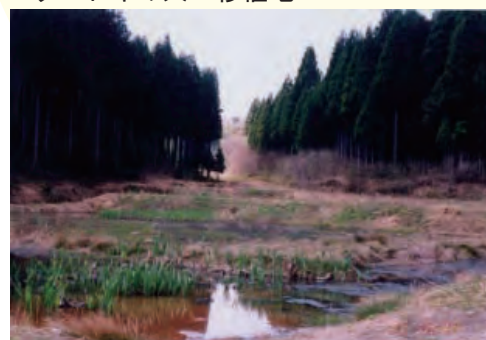
シャープゲンゴロウモドキの生活史と成虫(写真)



休耕田を利用したシャープゲンゴロウモドキの人工移植地



設計イメージパース



造成後2年半経過

(この業務は、平成12年度に石川県の委託を受けて行ったものです。)